



慶應義塾大学ビジネス・スクール

ケースメソッドによる経営能力の育成

5

ケースメソッドとは何か

慶應義塾大学ビジネススクールは設立当初よりハーバード大学ビジネススクールで開発された
ケースメソッドを導入し、この教育方法で授業を行ってきた。 10

ケースメソッドとは、ケースに書かれている内容を討議する形式で進める授業のやり方である。
ハーバード大学ビジネススクールで1930年代に開発され、その後、世界へ広まった。そもそ
のケースメソッドの起源は、ハーバード大学ロースクール（法科大学院）で行われていた討議形
式の授業にある。判例研究を用いる模擬裁判などの討論授業から、ビジネススクールに必要な経
営事例（ケース）を討議する形式の授業へと発展した。現在ケースメソッドは、実践的な教育方
法の一つとして世界中の教育機関で用いられている。 15

ケースメソッドには、私たちが今まで受けてきた伝統的な講義形式の授業方法と比較して、二
つの点で際立った特徴がある。第一は講師の役割である。ケースメソッドでは講師は自説を述べ
ず、講義をしない。教室にいる参加者や学生が講師と一緒にいろいろな意見や考えを発言
し合い、討論授業を構成していく。講師の役割は、討議にきっかけを与え、舵取りをすること
である。第二に、ケースを教材として用いる。ケースは講義形式の授業で用いる教科書とは異なる
性質をもつ。ケースには、記憶すべき理論や公式は書かれておらず現実の経営活動の様子があり
のままに述べられているだけである。 20

25

本ノートはケースメソッド授業に参加する人々へのガイダンスとして書かれたもので、教授 高木晴夫が作成した。
本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾
大学ビジネス・スクール（〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話 045-564-2444、e-mail:
case@kbs.keio.ac.jp）。また、注文は <http://www.kbs.keio.ac.jp/> へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許
可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法
（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。 30

Copyright© 高木晴夫，大倉由利子（2003年作成）